ROOKIE RACING

SUPER FORMULA

MOTEGI

2025 SUPER FORMULA Round.03 / 04

全日本スーパーフォーミュラ選手権 2025 第３戦／第４戦　モビリティリゾートもてぎ
4月 18 日（金）～ 20 日（日）

PRACTICE フリー走行

4月 18 日（金）　天候：曇り／路面：ドライ

３月に三重県の鈴鹿サーキットで開幕した 2025 年の全日本スーパーフォーミュラ選手権は、約１ヶ月強のインターバルを経て第２戦を迎えた。舞台は栃木県のモビリティリゾートもてぎ。例年は夏の開催で酷暑のなかでのレースとなっていたが、今シーズンは春の開催に移動した。

鈴鹿での開幕大会では、第２戦で早くも公式予選 Q2 進出、さらにポイント獲得とチームとしても上り調子にある docomo business ROOKIE と大嶋和也。この第２大会も好結果を残し、さらなるステップに繋げたいところ。今回も１大会２レース制で、チャンスは多いはずだ。

docomo business ROOKIE は第１大会の鈴鹿で２レースに渡って得られたデータとフィーリングをしっかりと解析し、４月 18 日（金）に１時間２セッション行われたフリー走行に臨んだ。

午前 11 時から行われたフリー走行１回目は、薄曇りのもと気温 24 度／路面温度 30 度と春の陽気で迎えた。大嶋はアウトラップ後、３～４周ほどのショートランを繰り返しながらセットアップを確認。チェッカー間際にアタックシミュレーションを行い、１分 33 秒 598 というタイムを記録。まずは 16 番手で１回目の走行を終えた。

全国的に気温が上昇していくなか、続く午後２時からのフリー走行２回目は、気温 27 度／路面温度 41 度まで上昇。風があるものの、この時季らしからぬ暑さのなかで行われた。大嶋はこの２回目もショートランを繰り返し、６回のピットインを行いながらセットアップを調整。同様に最後のアタックシミュレーションで１分 33 秒 225 を記録。14 番手という位置で初日を終えることになった。

「良かれと思ってやってきたセットアップがあまり良くなくて、元に戻したもののバランスが少し悪かったです」と大嶋は走行初日を振り返った。

ただ、２セッションとも順位は中団。「バランスが合わない割にはそこそこタイムが出ているので、それが合えば戦えると思っています」とセットアップを煮詰めれば上位に進出できる手ごたえを語った。

チームは４月 19 日（土）の予選に向け、セットアップを調整していった。

ROOKIE RACING

SUPER FORMULA

Round.03 QUALIFY 第3戦　公式予選

4月19日（土） 天候：晴れ／路面：ドライ

２回のフリー走行から一夜明け、迎えた４月 19 日（土）は午前９時 20 分から、第３戦の公式予選がスタートした。今回大嶋は Q1 のＡ組から出走することになったが、今回Ａ組は強敵ぞろい。そんな中で Q2 進出を果たすことができれば、今後に向けても大きな手ごたえを得ることができる。

そんな公式予選は晴天のもと、気温 23 度／路面温度 30 度と春を通り越したような暖かさのなか始まったが、大嶋は一度ユーズドタイヤでコースインした後、ニュータイヤを履きピットアウト。アタックラップに入った。

大嶋はここで１分 32 秒 300 というタイムを記録したものの、僅差の８番手という結果に。今回は Q2 進出はならなかった。「金曜の状況からはかなり改善したものの、想像以上にコンディションが良くて、グリップのレベルがぜんぜん違いましたね。コンディションに対して旋回性が足りませんでした」と大嶋。まわりの伸び幅に対して合わせ切れない状況となった。

ただ「悪くないフィーリング」があることは間違いない状況だった。大嶋は午後の決勝は 16 番手から追い上げを目指すことになった。

Round.03 RACE 第3戦　決勝レース

4月19日（土） 天候：晴れ／路面：ドライ

公式予選終了後、併催レースを経て、迎えた午後２時 50 分からの第３戦決勝レース。午前から続き晴天に恵まれ、気温は季節はずれの 30 度まで上昇。路面温度も 41 度と、４月とは思えないコンディションのもとスタートが切られた。

16 番手からスタートを切った大嶋は、１コーナーで発生した接触をうまく避けポジションを上げ、11 番手でオープニングラップを終える。アクシデントでストップした２台を回収するためにレースはセーフティカーランとなったが、大嶋はリスタートとなった４周目、前を走る #37 サッシャ・フェネストラズをオーバーテイク。ウォームアップからフィーリングは良く、好ペースを感じていた大嶋は、そのまま９番手を走る #4 ザック・オサリバンを追っていく。ただ、ペースは良いものの前を次々と抜いていくほどの圧倒的なパフォーマンスはない状況。集団の中にいてはせっかくのペースを活かせない。チームはピットウインドウがオープンした 10 周終了時に大嶋をピットインさせ、タイヤ交換を行った。

チームはいつもどおりの抜群の作業でタイヤ交換を終えたものの、一瞬リヤのジャッキが上がったままの状態になってしまう。さらにジャッキを下ろした間に、前方のピットに #50 小出峻が滑り込んでいた。第１戦も同様にのケースで２台は交錯し大嶋にペナルティが課されている。同じ轍は踏むまいとチームはしっかりと大嶋を制止したが、このわずかなロスで大嶋はポイントを得られるかどうかという位置でレース後半を戦っていった。

ただこの日は終始ペースが悪くなかった。レース後半、大嶋は前を走る 10 番手の #16 野尻智紀を追撃していく。二度のチャンピオンである #16 野尻に対し、大嶋は何度もオーバーテイクを仕掛けるモーションを繰り出していくものの、ライバルの直線も速く、なかなか追い抜きには至らない。ジリジリとした攻防のなか、後方からは #7 野中誠太も接近。ポイントをかけた緊迫した戦いが続いた。

そんななか、28 周目には４番手につけていた #15 岩佐歩夢がトラブルによりストップしたことから、大嶋はひとつポジションを上げ 10 番手に。待望の入賞圏内に入り、そのまま 33 周を走破。10 位で１ポイントを得ることになった。

第２戦に続く連続得点は大嶋と docomo business ROOKIE にとって非常にポジティブなものとなったが、「レース中ずっと誰かに引っかかってしまったのでもったいなかったです。またピットタイミングなど課題があるレースになりましたね」と大嶋は暑さのなかでのレースにやや疲れた表情を浮かべつつ、嬉しさ半分、悔しさ半分という表情をみせた。

ペースに苦しむ車両に引っかからないためには、やはり公式予選で前のグリッドを得るしかない。１ポイントをたしかな収穫としつつ、docomo business ROOKIE はさらなる上位獲得に向け、翌日に控えた第４戦に向けて準備を進めた。

ROOKIE RACING

SUPER FORMULA

Round.04 QUALIFY

第４戦　公式予選

4月20日（日） 天候：曇り／路面：ドライ

第３戦から一夜明けた４月20日（日）のモビリティリゾートもてぎは曇り空。午前９時10分から行われた第４戦の公式予選は、気温20度／路面温度24度というコンディションのもと始まった。

予選Q1はB組から出走した大嶋は、「走れば走るだけ反省点を活かして良い方向に進んでいました」と好感触を得てアタックを決めると、１分32秒583というタイムを記録。見事６番手につけ、今シーズン２回目となるQ2進出を果たしてみせた。チームの雰囲気を大きく上げる結果を残すと、続くQ2でも集団のなかでしっかりと場所取りを行いアタックを展開。１分32秒612を記録した。このタイムは奇しくもSUPER GTのチームメイトである#8 福住仁嶺と同タイムとなったが、タイムを出した順番で大嶋の順位は11番手となった。

決勝でもポイントを狙える順位にチームの雰囲気も盛り上がったが、大嶋からは予選後「このセットアップだと、少し限界も見えてきていますね」とさらなるパフォーマンスアップを見据える言葉も。

第３戦でのポイント獲得、そして第４戦でのQ2進出と上り調子のなか、チームは決勝での好結果に向け準備を進めた。

Round.04 RACE

第４戦　決勝レース

4月20日（日） 天候：曇り／路面：ドライ

迎えた第４戦の決勝レースは、気温26度／路面温度34度というコンディションのもと、午後２時55分にスタートした。大嶋はわずかにポジションを落とし14番手につけるが、その後方では１コーナーでアクシデントが発生。レースは１周目にセーフティカーが導入される。

2025年から導入されたレギュレーションにより、この第４戦はピットウインドウが存在しない。セーフティカーラン時にピットインできれば、取り分が大きい。docomo business ROOKIEは事前に１周目のセーフティカー導入時にはピットインすることを決めており、石浦宏明監督はピットクルーに指示。事前の打ち合わせどおりに大嶋を呼び戻し、ピット作業を行った。

他チームでは２台同時ピットを行うなどロスタイムも発生したが、こういう時には１台体制の優位がある。大嶋は１周目にピットインした陣営のなかでポジションアップに成功。13番手につけ、６周目のリスタートを迎えた。

この週末、走るたびにパフォーマンスを上げてきた大嶋は、リスタート後のペースも悪いものではなく、９周目に#64 佐藤蓮を先行すると12番手に。さらにトラブル車両が発生すると17周目には11番手につける。ただ１周目のセーフティカーラン時、ステイアウトした陣営が前方におり、空気の流れが悪い。大嶋は集団のなか順位の変動なくレース終盤を迎えることになった。

ステイアウト組は21周あたりからピットに向かいはじめ、大嶋の順位はひとつずつ上がっていく。そのうち、この週末図抜けた速さをみせた#5 牧野任祐こそ一度先行した後、オーバーテイクを許すことになったが、レース終盤大嶋は６番手につけ、４番手の#37 サッシャ・フェネストラズ、５番手の#38 阪口晴南を追うレースを続けていった。

ただモビリティリゾートもてぎはオーバーテイクが難しく、最後まで順位の変動はなくフィニッシュを迎えた。大嶋はそのまま６位でフィニッシュ。第３戦に続く今季３回目の入賞、そして2023年第５戦SUGOの４位に次ぐ上位入賞となった。

大嶋にとっては圧倒的なペースがあったわけでもなく、入賞は展開に恵まれたから……という印象ではあるものの、とはいえ６位に食い込めるのは予選でQ2に進出し、上位陣と戦うペースがあればこそ。確実なベースアップを印象づけた。

レース後、６位という結果に対しモリゾウは「苦しいときからやってきたことが、少しずつ実を結んでいます。

Q1を突破しても、以前はお祭り騒ぎ、今年はそう喜んでいない。だんだんと通常になってきています」と声をかけた。

「我々が悩みながらやってきたことが結果として見え、光が見えていると思います。とにかく続けてください。そして、これからです」

モリゾウが言うとおり、ここから先は表彰台を目指す戦い。docomo business ROOKIEはさらなる高みを狙う。

ROOKIE RACING

SUPER FORMULA

VOICE ドライバー／監督コメント

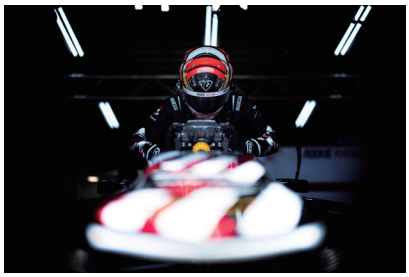
Kazuya OSHIMA DRIVER 大嶋和也

「第３戦ではペースがかなり良さそうだったのですが、レース中ずっと誰かに引っかかっているような状況でもったいないレースになってしまいました。抜くまでのパフォーマンスはありませんでしたが、なんとかポイントも獲れましたしね。課題がある中での得点ができて良かったです。第４戦についても展開に恵まれ、６位に入ることができたのは良かったです。グリップ感があまりなくて、前に仕掛けられるほどのパフォーマンスはなく、前のクルマのペース次第のレースになりましたね。とはいえ５ポイントを得ることができ、良い位置でレースができました。昨年に比べても成長を感じていますし、今後も可能性があると思います。オートポリスは好きなコースですし、チャンスはあると思っています」

Hiroaki ISHIURA DIRECTOR 石浦宏明

「今週はかなり攻めたセッティングで持ち込んだのですが、フリー走行では少し調子が悪かったので、そこからはチーム全員で『セッションごとに良くしよう』を合い言葉にして、そのとおりに全セッションでフィーリングも順位も上げていくことができました。こういうレースができれば次に繋がると思います。開幕大会の第１戦では自分の反省点もありペナルティがありましたが、それさえなければ今季は全レースで入賞できる戦いができています。昨年よりもかなりレベルが高いチームになってきていると感じています。次戦のオートポリスも、チーム全体が“狙えるサーキット”だと思っていますが、気負わずいつもどおりやれればと思いますし、この先さらにレベルアップして表彰台を狙いたいと思います」

PHOTO GALLERY フォトギャラリー



ROOKIE RACING

SUPER FORMULA

RESULT リザルト一覧

SUPER FORMULA FP 1

SUPER FORMULA FP 2

SUPER FORMULA Q1 A

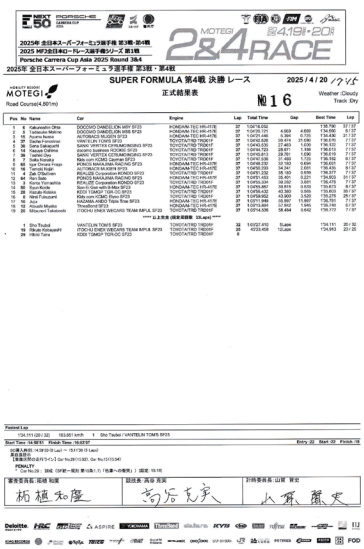
SUPER FORMULA 第3戦 公式予選

SUPER FORMULA 第3戦 決勝 レース

SUPER FORMULA 第4戦 公式予選 Q1 B

SUPER FORMULA 第4戦 公式予選 Q2

SUPER FORMULA 第4戦 公式予選



SUPER FORMULA 第4戦 決勝 レース

2025 年全日本スーパーフォーミュラ選手権ランキング　大嶋和也：13 位（7 ポイント）　docomo business ROOKIE：8 位（7 ポイント）

ROOKIE RACING

SUPER FORMULA

Our activities are supported by all sponsors

ROOKIE Racing の活動は、多くの皆さまのご協力によって支えられています

docomo business

DENSO

MITSUI & CO.

OGURA CLUTCH

HAYASHI TELEMPU

いつもさいしょ、アタラシイコト。 Creative Power VTEC

NSK

SMBC

KINTO

vuteq

TAMIYA

ENKEI

PUMA

asics

ThreeBond